

出張報告書

令和元年8月26日

職氏名 市議会議員 濱岡 歳生	用務 地方から考える社会保障フォーラム参加
期間 令和元年8月7日から 令和元年8月8日まで	出張先 東京都中央区銀座1-6-2 銀座Aビル3階 ビジョンセンター東京有楽町

意見・調査事項

地方から考える社会保障フォーラムセミナーが8月7日～8日にかけて開催された。

講義1 少子高齢社会における訪問介護の役割ー被災地の経験をまじえて

菅原 由美氏 (全国訪問ボランティアナースの会キャンナス代表)

講義2 空き家対策ー都市の事情、地方の事情

深井 敦夫氏 (国土交通省住宅局住宅総合整備課長)

講義3 ごちゃまぜで進める地域包括ケア・地域共生社会

唐沢 剛氏 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授)

8日

講義1 児童虐待ー児童福祉法の改正で地方自治体がやるべきことは

成松 英範氏 (厚生労働省子ども家庭局福祉課長)

講義2 認知症施策の総合的推進について

岡野 智晃氏 (厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室長)

講義1では全国ボランティアナースの会「キャンナス」の菅原由美代表は、「少子高齢社会における訪問看護の役割ー被災地の経験をまじえて」と題して講演。平時と災害時の活動を紹介するとともに、今後は展望した。名称のキャンナスとは「デキル (Can) ことをデキル範囲で行うナース (Nurse) という意味。地域に根ざした活動をモットーに、本人・家族が満足できる手厚い介護・看護の実現を目指している。理念として、自身の介護・看護体験を踏まえ、ターミナルケア・潜在ナースの掘り起こし・レスパイトケアの3つ掲げている。現在、キャンナスは全国に127ヵ所が活動している。菅原氏は、訪問看護の1人開業を認めるように規制緩和を働きかけ、東日本大震災の折に特例として認められた経緯を紹介。さらに「身近にいる、かかりつけナースが大切！」として地域に根ざしたナースが1人でも開業し、制度外の取り組みも行き、まちのコンビニのような存在として活動していくことを展望した。

講義2では「空き家対策ー都市の事情、地方の事情ー」をテーマに講演した。空き家の現状とその対策を説明するとともに、高齢者や障害者、低所得者などへの新たな住宅セーフティネット制度による取り組みを紹介した。まず空き家は1998年の576万戸から2018年には846万戸と20年で1.5倍と増加しており、このうち賃貸用又は売却用等を除いた「その他の住宅」が347万戸を占め、うち一戸建て(木造)が239万戸と最も多いことを示した。「空き家」は倒壊の恐れのあるものから使用できるものまで多様であることを指摘。そのうえで、国土交通省では、議員立法による「空き家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき、市町村が行う空き家対策への補助などの支援を進めていることを説明した。

自治体の取り組みとして、福岡県太宰府市では、高齢者やその家族と接点深いケアマネージャーや民生委員といった福祉関係者、自治会等の意向を把握。連携して空き家対策に取り組んでいることなど紹介した。また、新たな住宅セーフティネット制度による取り組みとして、熊本市社会福祉協議会が居住支援法人と

して住宅確保要配慮者支援事業を実施していることを紹介。独居高齢者等を対象に、賃貸住宅契約時に求められる保証を熊本市社協が行い、入居時から退去時までの包括的かつ継続的な支援を行っていることを説明した。また、「空家を福祉施設等に活用している事例が全国でも増えている」と指摘。例えば高知県高岡郡梶原町（ゆすはらちょう）では空き家を町が借り上げ、生活困窮者に対して住宅として貸し出していることや、石川県輪島市で社会福祉法人が市街地に点在する空き家を取得・改修し、交流施設や福祉施設として運営していることをあげた。

講義3では「ごちゃまぜで進める地域包括ケア・地域共生社会」をテーマに講演。

地域包括ケアの構築に向けては、「医療介護連携」と「生活支援とまちづくり」に分けて考える事を提案。医療介護連携とは「地域における総合的なチーム医療介護」であり、これが出来れば利用者は安心してサービスが利用でき、医療難民・介護難民にならないことを指摘した。医療介護連携が進まない理由としては、①急性期医療と回復期以降のスタッフ、医療と介護の両サイドの相互理解が進まない②チームメンバーは別々の組織、団体の職員一の2点をあげ、「医療介護連携には顔の見える関係は必須。顔の見える関係が出来れば医療介護連携は出来たも同然」と述べた。地域共生社会づくりについては、認知症の人も、認知症の人も、障害のある人もない人も、高齢者も子供も、あらゆる人たちを「ごちゃまぜ」にすることが重要であることを指摘。その上で、「自然に楽しく、その力を引き出し、元気と活力のある地域、あらゆる人に開かれた地域をつくっていく。開放されたごちゃまぜにより、私たちは新しい協力者に会うことができる。その協力者との相互作用によって、化学反応が生まれ、新しい価値と新しい社会を創造する」と述べた。

8日は成松英範・厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課長の「児童虐待一児童福祉法の改正で地方自治体ができるべきことは」と岡野智晃・厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室長の「認知症施策の総合的推進について」の講義が行われた。

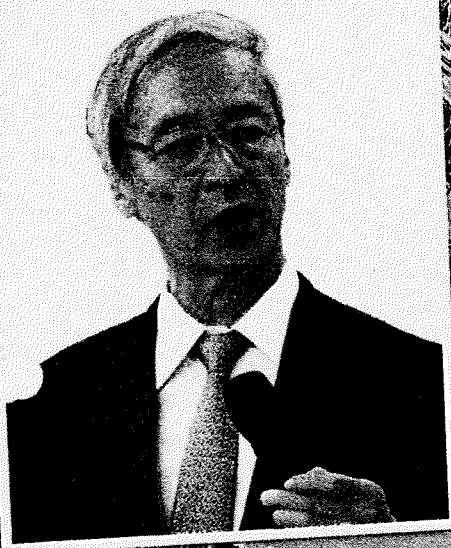
第19回

社会保険旬報 地方から考える 社会保障フォーラム

最新政策動向をめぐって
セミナー開催のご案内

少子高齢化が進展する中、人生100年時代と言われるようになりましたが、高齢期を健康で20年以上にわたり過ごすことが可能な社会では、どんな政策が必要なのでしょう。不足する社会保障制度の担い手をどう確保するのか、社会保障給付費の際限のない伸びをどう抑えていくのかなどの喫緊の課題について、今回も地方議員の皆様と政策担当者や、専門家とで活発な意見交換の場を持ちませんか？
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

講演者プロフィール



唐澤 剛氏 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授、
佐久大学客員教授、前内閣官房まち・ひと・しごと
創生本部地方創生総括官

「ごちゃまぜで進める地域包括ケア・地域共生社会」



石坂 聡氏 国土交通省住宅局住宅総合整備課長

「空き家対策—都市の事情、地方の事情」

宮腰 奏子氏 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課
虐待防止対策推進室長

「児童虐待—

児童福祉法の改正で地方自治体がやるべきことは？」

田中 規倫氏 厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室長

「認知症対策—その最新情報」

菅原 由美氏 全国訪問ボランティアナースの会代表

「少子高齢化社会における訪問看護の役割—
被災地の経験をまじえて」



第18回「地方から考える「社会保障フォーラム」
セミナーの様子

日時 **2019年8月7日(水)、8日(木)**

参加費 7月31日(水)までに27,000円(消費税込み)をお振込みください。

会場 (貸会議室)ビジョンセンター東京有楽町 〒104-0061 東京都中央区銀座1-6-2 銀座Aビル3階

定員

100名

定員になり次第
締切

主催

地方から考える「社会保障フォーラム」事務局 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-5-3 兎谷ビル3F 社保研テラス1内
TEL 03-3253-0570 / FAX 03-3527-1028

協賛

株式会社社会保険研究所 / 年友企画株式会社 / 株式会社社会保険出版社 / 株式会社フィズメック

PROGRAM 第19回 地方から考える「社会保障フォーラム」

8/7(水)

1日目

12:00~ 受付開始

12:45~ 開講の挨拶、オリエンテーション

13:00~14:00 **講義1**「児童虐待－児童福祉法の改正で地方自治体がやるべきことは？」
宮腰 奏子氏 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課虐待防止対策推進室長

14:00~14:30 討議(30分間)

14:30~14:40 休憩(10分間)

14:40~15:40 **講義2**「空き家対策－都市の事情、地方の事情」
石坂 聡氏 国土交通省住宅局住宅総合整備課長

15:40~16:10 討議(30分間)

16:10~16:20 休憩(10分間)

16:20~17:20 **講義3**「ごちゃまぜで進める地域包括ケア・地域共生社会」
唐澤 剛氏 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授、佐久大学客員教授、
前内閣官房まち・ひと・しごと創生本部地方創生総括官

17:20~17:50 討議(30分間)

17:50~ 情報交換会 ※講師のご参加者はオリエンテーションにて告知します。

18:50 終了

8/8(木)

2日目

9:30~ 受付開始

10:00~11:00 **講義1**「少子高齢化社会における訪問看護の役割－被災地の経験をまじえて」
菅原 由美氏 全国訪問ボランティアナースの会代表

11:00~11:30 討議(30分間)

11:30~12:30 昼休み(60分間)

※12:20~12:30 (株)社会保険出版社 太田 真吾「地方自治体における地域包括ケアシステムの取組例」

12:30~13:30 **講義2**「認知症対策－その最新情報」
田中 規倫氏 厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室長

13:30~14:00 討議(30分間)

14:00~14:10 休憩(10分間)

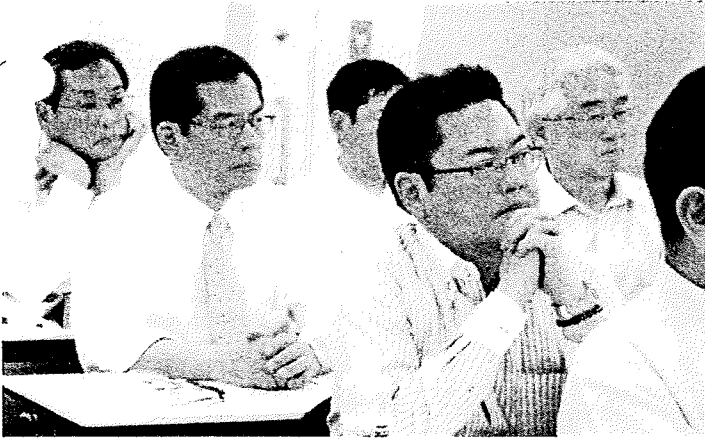
14:10~14:55 **講義3**「地域包括ケアシステムの構築」
年友企画(株) 大山 均「Web版『年金広報』のご紹介」
(株)フィスメック 白崎 哲史「パワハラ防止法案」
(株)社会保険研究所 谷野 浩太郎「地域包括ケアシステムの10年を振り返る」

14:55~ 終了の挨拶 次回開催のお知らせ

15:00 終了

※ 講師・テーマは予告なく変更されることもありますので予めご了承ください。※ 昼食は各自でお取りください。

第18回 地方から考える「社会保障フォーラム」セミナーの様子



社会保障フォーラムが全面協力！

『サンデー毎日』新連載 毎週火曜日発売

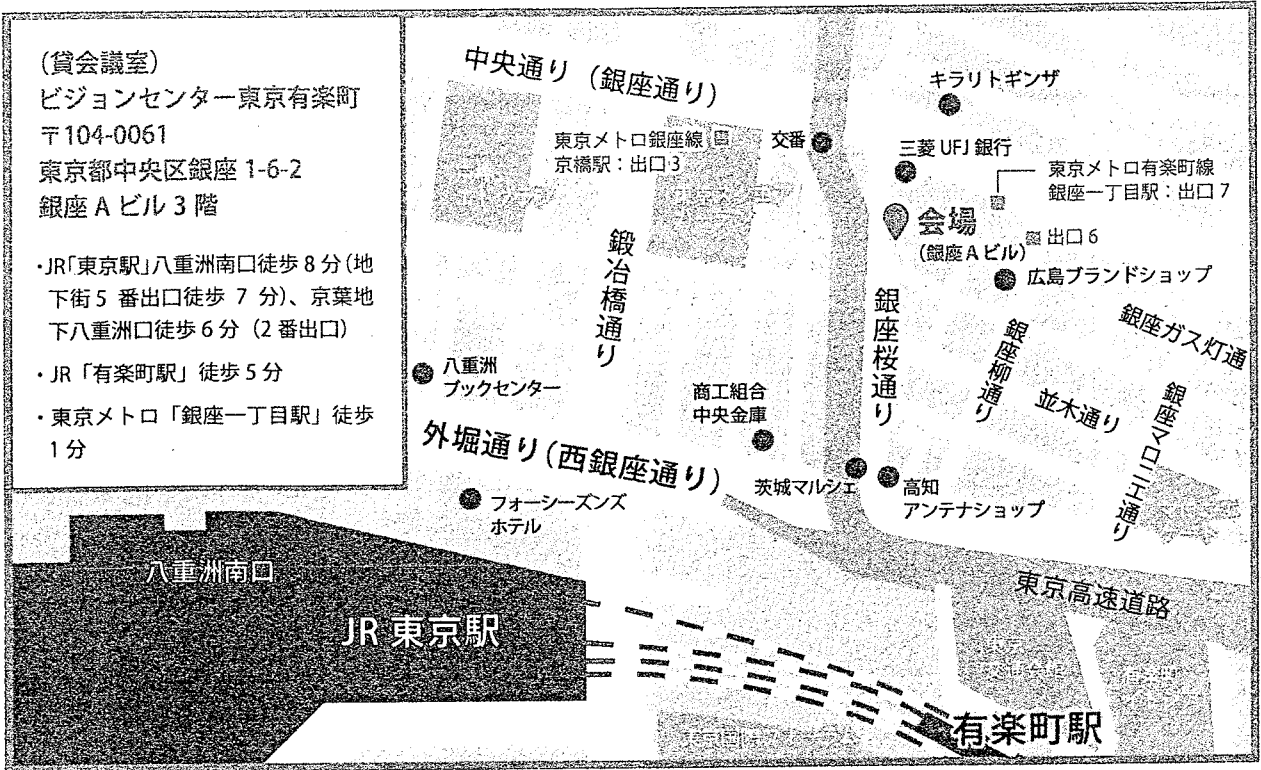
週刊誌としては日本で最も古い歴史を持つ『サンデー毎日』に、私ども社会保障フォーラムが協力するなかで、新たな企画記事が始まりました。(10.28 2018号から)

タイトルは「プロがこっそり教える 読んでトクする社会保障」。文字通り、社会保障に関する最新情報を、読者に届けるというのが趣旨です。現在、私共のフォーラムの運営に協力していただいている専門家が交代で執筆しています。

地域から全国に発信しませんか

今後もフォーラム事務局は「読んでトクする社会保障」の編集作業に協力してまいります。同連載のテーマは、医療、年金、介護、高齢者・障がい者福祉、生活保護など多岐にわたります。地方議員の皆さんが日々地域で取り組み、実現された数多くの成果の中で、全国に発信すべき情報をお持ちで、執筆してみたいお考えがありましたら、事務局までお問い合わせください。

会場案内図



(貸会議室)
 ビジョンセンター東京有楽町
 〒104-0061
 東京都中央区銀座1-6-2
 銀座Aビル3階

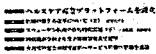
- ・JR「東京駅」八重洲南口徒歩8分(地下街5番出口徒歩7分)、京葉地下八重洲口徒歩6分(2番出口)
- ・JR「有楽町駅」徒歩5分
- ・東京メトロ「銀座一丁目駅」徒歩1分

後援

社会保険旬報 67

社会保険旬報 — 医療に関わる全ての情報を提供 —

Web版 無料会員登録集中です!



- ・医療政策の動向や背景、展望についてわかりやすくお伝えします。
- ・介護との連携や年金政策の動きなどもタイムリーに知ることができます。
- ・社会保障フォーラムをダイジェストで講師のご講演の要旨と「討議」の概要を掲載。

Web 医療と介護
<https://info.shaho.co.jp/iryou/>

見本誌をご希望の方、購読のお申込みをしたい方は(株)社会保険研究所までご連絡ください。
 TEL: 03-3252-7901(代)

SINCE 1973
 年金時代
<https://info.shaho.co.jp/nenkin/>

第19回 地方から考える「社会保障フォーラム」セミナー 参加申込書

お名前	ふりがな	所属協会
ご住所	〒□□□-□□□□	電話番号
		FAX
		Eメールアドレス

※ご記入いただいた個人情報は、フォーラムにご参加いただく皆様へのご案内・情報提供の目的に使用させていただきます。管理にあたっては、必要かつ適切な安全管理措置を講じ、漏えい、紛失、毀損または不正アクセス等の防止に努めます。

お申し込み先 FAX 03-3527-1028 または
 Email tirare@abelia.ocn.ne.jp でお申し込みください。

- お申し込みをいただいた方には事務局から受付完了のメール(アドレス記載のない場合はFAXにて)をお送りいたします。3日経っても届かない場合はご一報ください。
- 事務局からメールが届きましたら、右記の口座へ参加費をお振込みください。

【振込先】三菱UFJ銀行 神保町支店
 【口座番号】(普) [REDACTED]

お問い合わせ先 TEL 03-3253-0570 不明な点は、左記までお問い合わせください。

社会保険研究所のホームページからもお申し込みいただけます。 <http://tirare.jp/>